

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	公開U40（高松市創造都市推進懇談会）
開催日時	平成27年11月11日（水） 18時30分～21時
開催場所	瓦町FLAG8階 アートステーション多目的スタジオ
議 題	グループごとにプレゼン発表
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	甘利委員、岡田委員、鎌田委員、香西委員、児島委員、坂口委員、高島委員、谷委員、中筋委員、西成委員、英委員、人見委員、広野委員、眞鍋邦委員、眞鍋康委員、森委員、山家委員、若宮委員
傍 聴 者	113人
担当課および 連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過及び審議結果

1 開会

メンバー紹介

2 発表

- (1) 人見会長 「時間」の再構築に基づく創造都市高松の戦略的見通し
- (2) ライフスタイルの創造『EXTRA（すきま）』
- (3) 空き家・空き店舗対策『カーペンターズ アンダー アーケード』
- (4) こども・教育『創造的少子化対策』
- (5) コミュニティ『市役所とのヒトづくり～10,000人で高松を変える～』

※詳細は別紙のとおり

3 コメント

高松市創造都市推進審議会 中副会長

高松市 松下副市長

※詳細は別紙のとおり

公開

U40

U40とは

高松市創造都市推進懇談会の通称。

高松市が創造都市を推進していくに当たり、各分野で活躍している40歳未満の若い世代の意見を広く聞き、20年後30年後を見据えたまちづくりを目指していくための会。平成24年度からスタートし、現在2期目。

【高松市創造都市推進懇談会（U40／2期）メンバー】

氏名	役職名	氏名	役職名
人見 訓嘉	コピーライター、クリエイティブディレクター	谷 真琴	一般社団法人讃岐ライフスタイル まちのシューレ963店長
英 誠一郎	株式会社四国新聞社メディア事業部ウェブマスター	中筋 康人	J C B A日本コミュニティ放送協会理事、 FM高松 執行役員 局長
甘利 彩子	NPO法人瀬戸内こえびネットワーク事務局長	西成 典久	香川大学経済学部 准教授
岡田 仁陽	公募委員(岡田パートナーズ公認会計士事務所)	広野 亜由美	一般社団法人Coクリエーション 理事
鎌田 直子	NPO法人農村歌舞伎祇園座保存会事務局	松岡 敬三	公益社団法人高松青年会議所 理事室長
香西 志帆	映画監督	眞鍋 邦大	株式会社459 代表取締役／株式会社四国 食べる通信 代表取締役
児島 知樹	一般社団法人まちテレ 番組製作委員	眞鍋 康正	高松琴平電気鉄道株式会社 代表取締役社長
坂口 祐	デザイナー／物語を届けるしごと	森 さくら	公募委員(ブリーザーズスクエア運営委員会)
高島 朋江	四国旅客鉄道株式会社 総合企画本部地域連携室	山家 春香	公益財団法人香川県体育協会 クラブアドバイザー
田中 祐	公募委員(株式会社中田養蜂)	若宮 武	公募委員(ゲストハウス若葉屋)

創造都市とは「人口減・税収減の時代における持続可能な都市運営の手法のひとつ」である。創造都市を推進するにあたり今後どう進めていくか、多くの都市が二の足をふんでいる状況のように感じる。高松では平成25年10月のビジョン策定から2年が経ち、具体的な取組内容メニューが少し踊り場状態にあると思う。

成長期（ものをつくれれば売れるという時代）の文脈が破壊し、「人、知識、モノ、サービス、カネ、時間、自然」という要素の結びつきの再構築が必要となった。中でも「時間」にフォーカスしてみると、成長期にみられた「早いことが良い、遅いことは劣っている」という価値観から、「slowness」という価値観を積極的に楽しめるような都市づくりが求められているように感じる。

積極的な選択肢としての「slowness」を、「都市の仕組みの再構築」（ハード面）と「ヒトの価値観の変容」（ソフト面）で整理してみた。

「slowness」を都市の仕組みの再構築に落とし込んでみると、「公共交通」「マチと瀬戸内海」「行政改革」という整理ができた。

「公共交通」は場所に即したスピード感を重視したモビリティの階層性（都市間は高速、県内は中速、小学校単位くらいのコミュニティは低速）

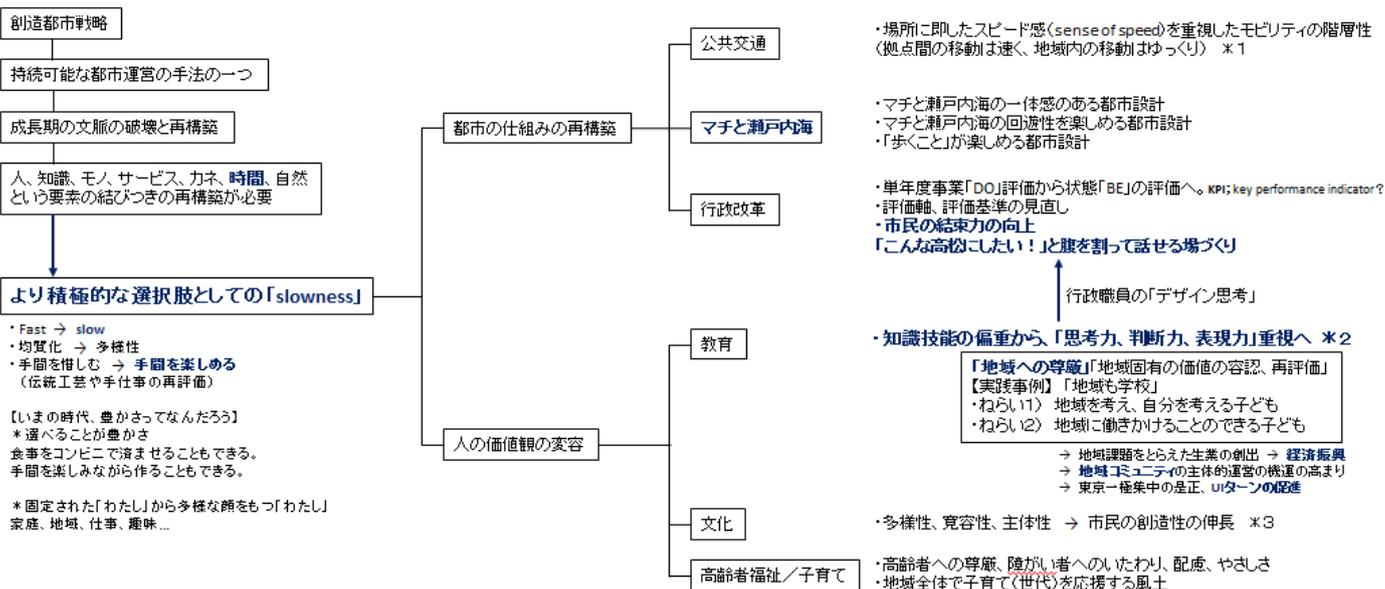
「マチと瀬戸内海」は海側とマチ側の一体感のあるような都市設計

「行政改革」と「人の価値観の変容」がリンクするが、教育に焦点をしばって見たときに小学校の改定指導要領には、知識技能の偏重から、「思考力、判断力、表現力」を重視へとあり、これからの時代を担うこどもたちにいかに「思考・判断・表現」という力をつけていくかが求められている。

「行政職員のデザイン思考」つまり、自分たちで課題を捉え、解決方法を模索するそういう職員の増加が必要で、それが行政内部の創造都市の加速につながると考える。

「時間」の再構築に基づく創造都市高松の戦略的見通し

高松市創造都市推進懇談会 会長 人見 訓嘉



*1 スローモビリティを活用したアート観光が育む創造性の溢溢効果。人見訓嘉、土井健司、猪井博登、土木計画学研究・講演集(CD-ROM)、49 ROMBUNNO.178、2014年06月
 *2 平成23年度小学校指導要領解説 総則編 第3章 第1節第1章第1の1(平成20年8月 文部科学省)
 *3 スローモビリティを活用した観光体験が住民の意識・行動に及ぼす影響と創造性溢溢効果。人見訓嘉、土井健司、猪井博登、都市計画学論文集、Vol.50 No.1 pp.148-153、2015年04月、学術論文

ライフスタイルの創造

観光客と地元住民をどう結び付けるかという視点で、「空間・時間・ヒト」という3つ「つなぐ」をテーマに発表する。

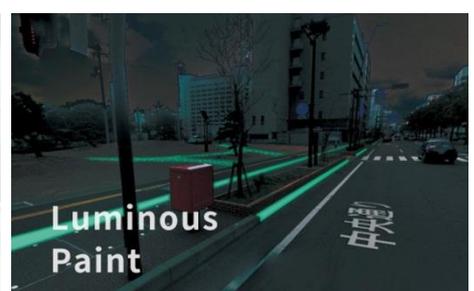


1) 空間をつなぐ

『非言語のサイン計画』

瀬戸芸効果もあり、外国人観光客も増える中で、「非言語」によるサインは重要。

- ・ 空港行のバス停 非言語で飛行機マーク
- ・ 足元にルートを示す
- ・ 蓄光塗料 東南アジア等で使用されている。
- ・ アートシティらしい、美しいサイン計画を。



2) 時間をつなぐ



「EXTRA TIME」 (= 8 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0 以外) に着目

地元住民にとっては、働く時間以外である出勤前とアフター5をどう過ごすか、観光客にとっては、島へ旅する時間以外である早朝と高松に帰ってからの時間をどう過ごすかを考える。

この「EXTRA TIME」を豊かにすることが、暮らしの豊かさにつながると考えた。



『朝・夕の港マルシェ』

市内では、島旅に出かける前に朝食を食べるところが限られている。朝うどんも一部の店舗だけ。

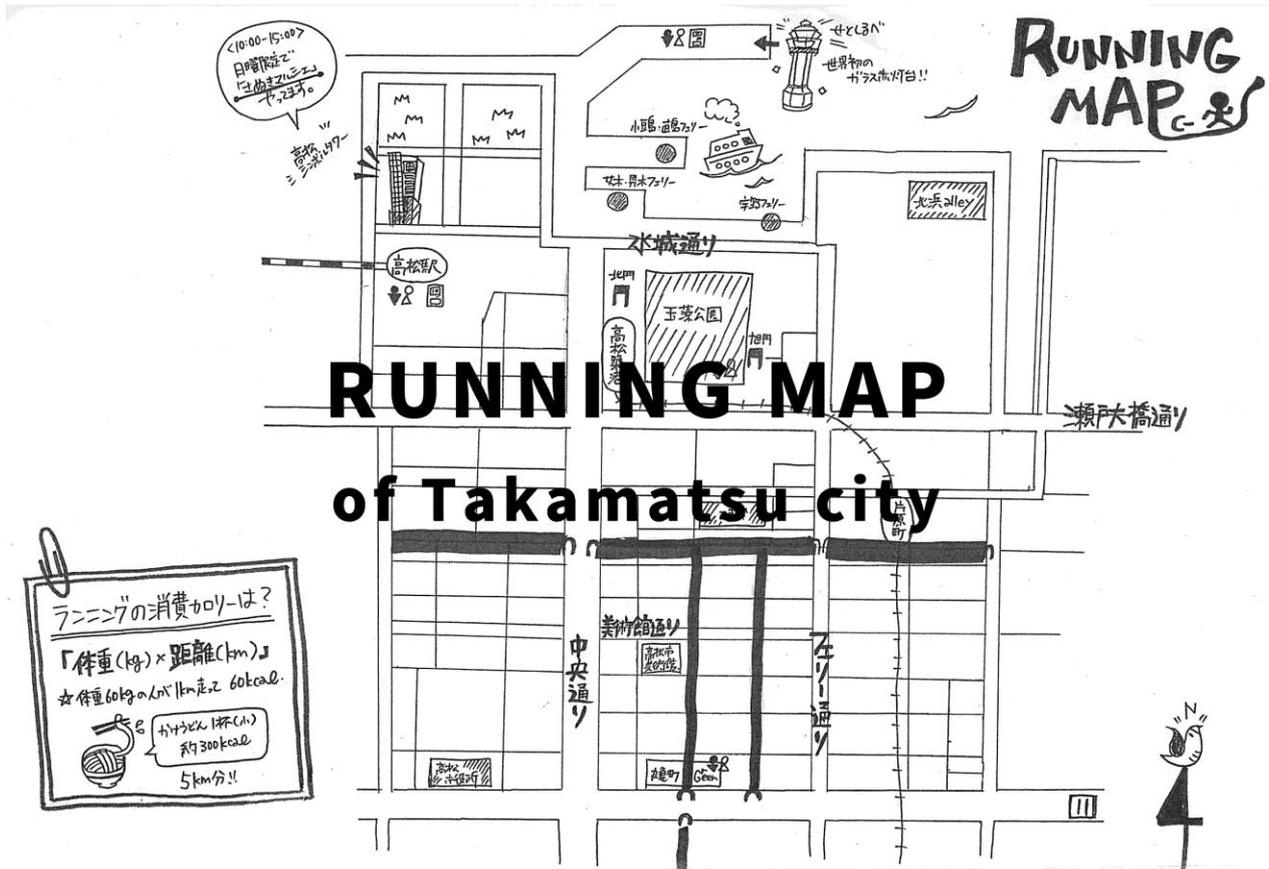
港に行く通り道に、モーニングのマルシェ、また島帰りに立ち寄れる港マルシェを提案する。



築港にマルシェがあったらこんなイメージ →

『ランニングマップの制作』

外国人観光客など、朝ランニングを習慣にしている人が宿泊先周辺でのランニングおすすめコースを聞かれることが多いが意外とマップがないので、制作してみた。



ランニングの消費カロリーは?
 「体重(kg) × 距離(km)」
 ☆ 体重60kgの人が1km走ると 60kcal.
 かけっこだん 1杯(小) 約300kcal
 5km分!!

港～ショップ～宿

今回、チームの中に瀬戸芸こえび隊の甘利さん、まちのシュレの谷さん、ゲストハウス若葉屋の若宮さんがいて、島にいった観光客が高松港についてから、お土産を買って、宿に行くというのが時間差で流れてくるという発見があった。

人々の交流の様子をダイアグラム(↓)にまとめたので、それをもとに演劇で再現した。(右写真)



3) 人をつなぐ

『コンシェルジュ制度』

瀬戸芸のときに、島のおじちゃんたちが若い子たちに声をかけて案内しようとした。なにもないと不審がられたが、「案内人」という看板があるだけで信用度がアップし声もかけやすくなった。

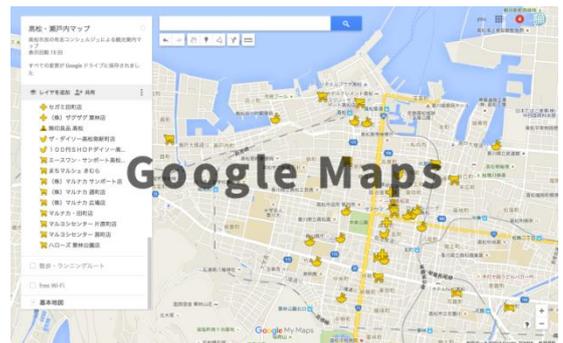


コンシェルジュ制度といっても誰かが審査して認定するようなものでなく、このバッジを付ければ「私は高松のことを案内しますよ」という意思表示になるというようなものを提案したい。また、高松市美術館や瓦町FLAGなど、ココに行けばコンシェルジュに会えるという場所があったらよい。



『みんなのマップ Google Maps 』

すでに稼働しているものだが、みんなでまちなかのおすすめ情報をアップでき、コンシェルジュサービスにも役立つもの。



<<まとめ>>

つなぐ CONNECTION

- 01) 空間をつなぐ
非言語のサイン計画
蓄光塗料のルート案内
- 02) 時間をつなぐ
朝・夕の港マルシェ
ランニングマップの制作
- 03) 人をつなぐ
コンシェルジュ制度
みんなのマップ Google Maps

空き店舗の新しい活用方法の提案

カーペンターズ アンダーアーケード

U40「空き家・空き店舗チーム」

眞鍋・森・松岡・内海・杉野・木村・高田・藤目

高松市の現状

空き店舗

* H27.6月店舗立地動向調査結果より

- ◆中央商店街の空き店舗率（全フロア） **17.0%**
- ◆南部商店街（南新町・田町・トキワ街）の平均空き店舗率 . . . **21.4%**

空き家

* H27.3月発表の空き家等実態調査より

- ◆市内の空き家数 **5,868戸**
- ◆内、倒壊の恐れがある危険家屋 **935戸 (16%)**
- ◆家屋（14万2,625戸）に占める空き家率 **4.1%**。

再利用可能な空き店舗や空き家の物件をどう活用するか！

空き店舗が埋まらない理由

暗い・汚い・廃れている・人が少ない etc...

商店街のイメージが悪い！

+

改装費が高い・家賃が高い・駐車場がない etc...

初期投資費用の負担が大きい！

>>> 悪循環！！ <<<

高松市の現状

空き店舗率について、高松市が年に2回調査。

空き家については、危険な空き家への対応が今の市のメインになっている。

電気はLEDに変わって明るくなっているはずなのに、暗いイメージが定着している。

改装費の高さ、家賃の高さ、周辺駐車場の不足が足を引っ張っている。

DIYとは

DIYとは、専門業者ではない人が自身で何かを作ったり、修繕したりすること。英語のDo It Yourselfの略語で「自身でやろう」の意。

DIYやリノベーションの市場は広がりつつある！

※株式会社リクルート住まいカンパニー調査

- 首都圏、札幌、福岡は「リノベーション」に対する関心が高い。また2012年に比べ特に関心が高まったエリアは、仙台と東海。
- リノベーションの魅力は、2012年では“ローコスト”がトップだったが、2014年では“**自分らしさの表現**”がトップになっている
- これまでの「日曜大工」というイメージに加え、20代は「DIY」に対して「おしゃれ・かわいい・カッコいい」「女性向き」「楽しい・ワクワク」「インテリア」などのイメージが全体に比べて高い。

四国ではまだ関心は低い！



DIYの取り組み事例



友人や仲間と一緒に内装や家具などを作ることで愛着ある店舗に！



アーティストインレジデンス

市の補助

作品制作費+滞在費+交通費+地域交流事業費

アーティストに求めること

地域との関わり+作品を成果物として出す

■事業の目的

市内の活用されていない資源（空き家、廃校、商店街の空き店舗等）を活用し、国内外から招聘したアーティストが一定期間滞在しながら、地域とのつながりの中で作品制作を行うことで、地域との協働が生まれ、地域に賑わいをもたらすとともに、アートの普及や若手アーティスト等の育成につなげること。

**アーティストが地域とのつながり、地域との協働
地域に賑わいを生み出すことが重要！**

⇒でも、これってアートに限らなくてもよいのでは??

DIYへの注目。自分らしさの表現へ意識が高まっている。

コミュニケーションをはかりながら仲間と一緒にできるのも魅力。

取り組み事例

空き店舗の壁紙を貼ったり、照明を変えたり、床材を変えたりして、自分らしい空間を作っている。

文化芸術振興計画に基づく事業

アーティストインレジデンスはアートに限らなくてもよいのではという着目。

今ある事業を生かして

アーティスト
イン
レジデンス



DIY



空き家
空き店舗



カーペンターズ・アンダー・アーケード

アーティストインレジデンスの発展形。アーティストの中でも大工や建築家などを地域に招聘。空き店舗への出店希望者がアーティストを選べる形とし、現場では地域の人とDIYで店舗づくりを行い、できた店舗そのものがアーティストの成果物となる。レジデンス終了後、出店希望者はそのままテナントに入れる一方、地元の人にも愛着を持って利用できる店舗が残る仕組み。

カーペンターズ・アンダー・アーケード

アーティスト
(大工・建築家・デザイナー)



アーティスト選び
作品作り

作品制作費など



空き店舗・空き屋の情報共有
改装費補助など



内装工事の
負担削減

地域の人と
DIYで店舗づくり

テナント利用
も可能！

今後の可能性



成功事例が増えれば、大家さんの意識が変わる！



さまざまなアーティストとのふれあいが増えれば
地域全体としてアート意識向上も期待できる！



のちのちは、若手クリエイター育成や移住者優遇
などにも派生できる可能性がある！

アートというと非日常を演出するアーティストのイメージだが、もう少し日常によってもものづくりをできる人に、アーケードの中の空き店舗に入ってもらいDIYして空き店舗対策してもらおうもの。

新たな予算が必要なのではなく、すでにあるものをパズルのように組み合わせて、うまく使えば中心市街地の空き店舗対策に使えるのではという提案。

高松市がこの事業をやるとなったとき、出店希望者が自分の好みに合った企画を選べるようにすれば、より好み合ったものを選べる

左図のような三方良しの事業。

いろいろな人が関わることで、さらなる波及効果が期待できる。

南部商店街のまちづくり会社などとも連携しながら、継続して進めたい。

創造的少子化対策

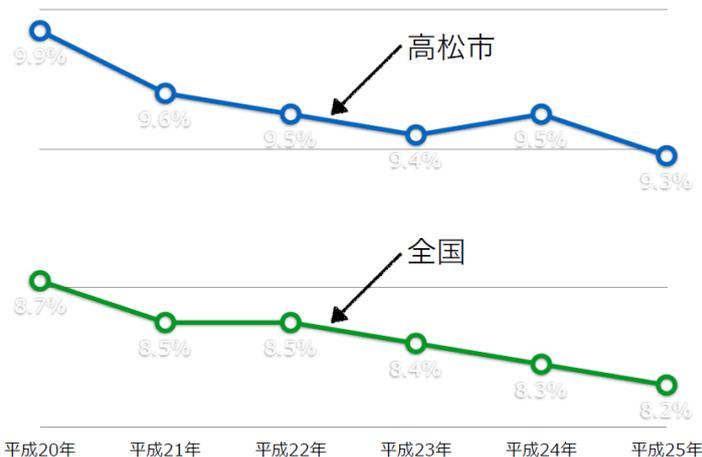
-sex education-

公開U40 瓦町FLAG

2015年11月11日

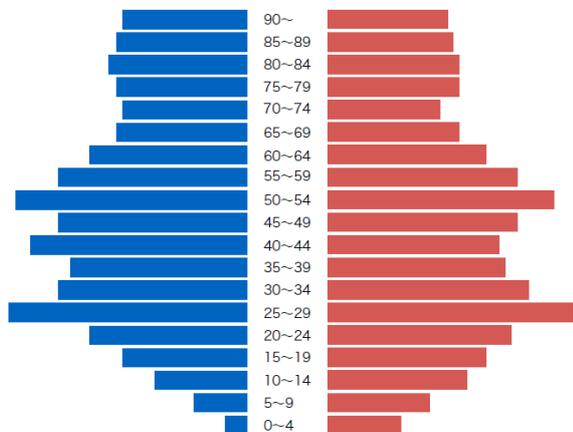
高松市の人口統計

高松市の出生率推移

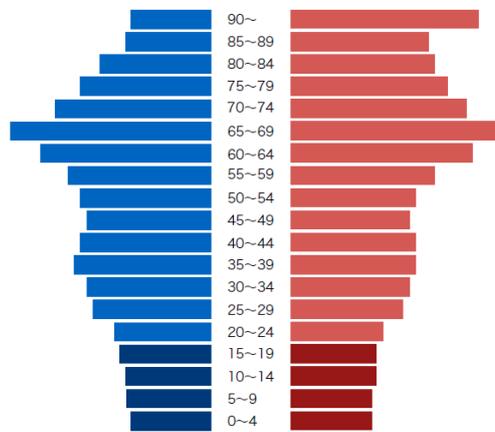


出生率は全国平均よりは高いが、どちらも下降傾向である。

高松市の人口ピラミッド(2015年)



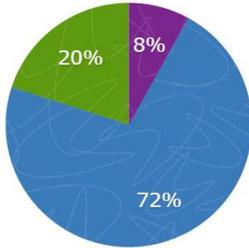
高松市の人口ピラミッド(2040年)



人口ピラミッドのかたちを変えるには長い年月が必要。超高齢社会の突入で、社会保障など課題は山積み。

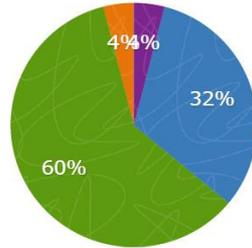
アンケート結果（性教育上の課題）

教職員の共通理解



- 全く困難を感じない
- あまり感じない
- 困難を感じる
- すごく困難を感じる

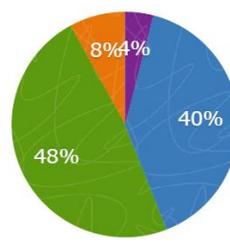
具体的な指導方針や指導内容



- 全く困難を感じない
- あまり感じない
- 困難を感じる
- すごく困難を感じる

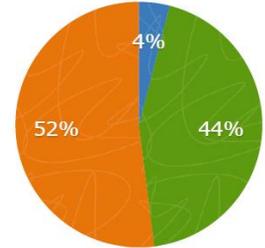
アンケート結果（性教育上の課題）

児童生徒の実態と指導内容のずれ



- 全く困難を感じない
- あまり感じない
- 困難を感じる
- すごく困難を感じる

性交についての取り扱い方



- 全く困難を感じない
- あまり感じない
- 困難を感じる
- すごく困難を感じる

根本的に少子化対策を語る上で、性教育、男女とはみたいな話は重要だと感じる。リアリティのある男女を語る人が減った。教職員の方々へのアンケートによると、様々な家庭環境やあふれる情報の中、先生方も困難さを感じていることがわかる。

アンケート結果（伝えたいこと）

- ・自分を大切にすること。
- ・生命の尊重
- ・性に対する知識と命の尊さ
- ・命の大切さ
- ・自分を大切にすること（考えること） 命の大切さ
- ・自分の命、自分の体を大切にしてほしい。
同様に他の人の命や体も気づかえるような人であってほしい。
- ・命の大切さ 相手を大切に思っ接すること
- ・正しい知識、理解 低年齢化しているため
- ・自他に身体と生命の大切さ。異性の理解と尊重。被害と加害の予防と
- ・生命の大切さ、個の大切さ（人権含む）
- ・命を大切にすることと相手や自分の気持ちや体を尊重しなければいけないということ。
- ・命の尊さ

アンケート結果（伝えたいこと）

- ・自分を大切にすること。
- ・生命の尊重
- ・性に対する知識と命の尊さ

基本的には「命の尊さ」

- ・正しい知識、理解 低年齢化しているため
- ・自他に身体と生命の大切さ。異性の理解と尊重。被害と加害の予防と
- ・生命の大切さ、個の大切さ（人権含む）
- ・命を大切にすることと相手や自分の気持ちや体を尊重しなければいけないということ。
- ・命の尊さ

性教育では基本的に「命の尊さ」を伝える場になっている。

男子の事情



知識を体系的に学ぶ場がない。現実と非現実がごちゃごちゃになっている。

女子の事情

高齢出産リスク

教育現場では教えてくれない重要知識



これまで誰も教えてくれなかった話題。内容がセンシティブで、なかなか実態はわからない。

提案

出前教室

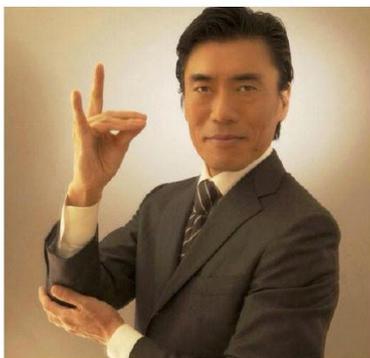
A V男優から現実を教わる

大人から恋愛経験を聞く

新性教育教本

実際にやっている人から話を聞くことで、何かがかわるかも。

A V男優の本音トーク



香川県出身の
A V男優
田淵正浩さん



首都圏などでは講演も盛んにやっている。

みんな様々なエピソードを持っている。それを聞き、男女・恋愛の話を前向きに捉えてもらえるようにできれば。



新しいコンセプトの新教本

「命の尊さ」だけではなく、「性に対する意識変革」の促し

瀬ト内工芸ズ

SETÖUCHI CŌGEIZ

地元クリエイターと連携

高松工芸高校出身者を中心に集まった

「子育て支援」、「少子化対策」というテーマでメッセージ広告

デザイン部活動「瀬ト内工芸ズ。」

意識変革できるように、地元クリエイターと連携して、デザインの手で少子化を考えたい。

まとめ

- 婚活パーティー
- 街コン
- 助成金
- 労働環境の改善



子供を増やすための環境
「だけ」を整えても、
根本が変化しないと状況
は改善しない

行政でも婚活に様々な予算が使われているが、子育て環境だけを整えても根底にある何か、そのサイクルを変えないと解決は難しいのでは。

- 望めば誰でも子どもがもてるわけではないこと、高齢出産にはリスクがあることなど知ったうえで、自分の子どもたちがライフプランを立てられるようにしてあげたい。
- 子どもが将来、自分の家族や子どもを持ちたいと思えるような環境を作ってあげたい。
- 自分でも知らなかったこと、もう少し早く知りたかったことがあったので、出前授業などで身構えてしまう心の壁をとっばらえれば。
- 学校教育だけではカバーしきれないものを家庭教育・社会教育・生涯学習を活用するべきでは。
- 男女関係の楽しさいろんな情報もあり偏った認識があるかもしれないが、若い人たちを育てるのは大人の責任。

U40 コミュニティ班
市役所とのヒトづくり
 10,000人で高松を変える

4,000人の市職員 + 6,000人の市民
10,000
420,907
 高松市の人口

4000人の市職員と、6000人の市民で高松を変えていこうという提案。

4,000人の市職員 + 6,000人の市民

**もっとまちのことを
考えたい市民**

+

**もっとまちづくりに
関わりたい市職員**

こういうヒトたちをどうやって増やしていくか？

まちにとって「公園」は象徴的

**自主的に芝生の
管理をする市民**

+

**市民と連携して魅力的な
公園を計画する市職員**

こういうヒトたちをどうやって増やしていくか？

* いまの「公園」について考える

- 雑談禁止
- ボール遊び禁止
- 花火、バーベキュー禁止
- 夜間出入り禁止

▼

どうしてこういうことが起こるのでしょうか？

- 一部の市民からのクレーム
- 「公平性」を保たざるを得ない市役所

- ・一部の市民からのクレーム
- ・「公平性」を保たざるを得ない市役所

どうすればこの状況を打破できるのでしょうか？

確かに活動的な市民を増やしていくことも大事
でも

いい「公園」をつくるために苦勞をいとわない
市職員に活躍してもらうことが先決

いい「まち」をつくるために苦勞をいとわない市職員

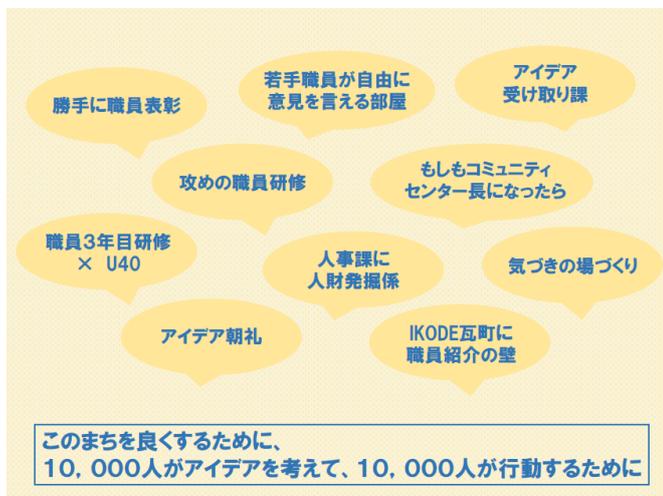
- ・どちらかというと余計な仕事が増えて嫌煙される...
- ・ようやく仕事ができるようになっても人事異動...

いい「まち」をつくるために苦勞をいとわない市職員
に活躍してもらうために何が必要なのでしょうか？

- ・市職員の評価制度を抜本的に変える
- ・一般事務職に「専門職」制度を導入する

...などなど考えましたが、U40的には...

いいまちを作るために苦勞をいとわない市職員に活躍してもらうことが大事。だけど...



上記のようにいろんなアイデアが出てきたが、今日この場に集まってくださっているみなさんも、熱い思いをもっている方々だと思う。その皆さんを点だとすると、それを面に変えられるようなアイデアが出たので次に紹介する。

9時15時デー
(高松の日)

年1回(高松市制施行日2月15日)

この日は条例で15時に仕事を終える日にする
高松をどう変えるかを考える2時間
市役所から市民へ、民間企業へ

自分が今回、U40に参加して高松のことを真剣に考え、すごく充実した時間を過ごせた、この体験を他の市職員や一般市民の方にも味わってほしい。

高松について考える、9時15時デー(高松の日)。ほんの2時間だけど、高松について考えることで、絶大な効果がでてくるのではないかな。

○考えることはとても大事なことだけど、考えた後のアクションについてもつなげていってほしい。

→まずは結果を求めずに、考える人が少しずつでも増え、最終的に全員で考えられれば結果はおのずとついてくると思う。

○高松のことを好きでないと真剣に考えることはできない。市の取組みを理解しようとする姿勢も必要だし、市職員は説明責任の全うが必要。

【人見会長】

4つの視点から政策のアイデアとして、ひらってもらえることがあれば嬉しい。

「気付きから根付きへ。」創造都市戦略があることを知った気付きを、一人一人の感覚へどう根付かせていくかが今後の鍵。創造都市推進が失速するか加速するかの分かれ道になる。

創造都市について、教育現場の方からはどうみえているのか？

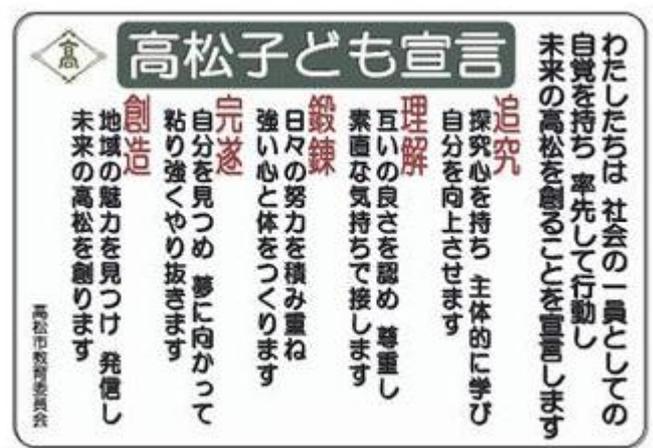
【学校教育課長】

次期教育振興基本計画が来年度からはじまる。その中に「ふるさと教育の推進」を盛り込んでいる。

毎年子ども議会をやっているが、今年度はその中で新たな取組として、「高松子ども宣言」の策定に取り組んだ。小中学生がそれぞれ5つの観点でまとめたものの中に、「ふるさと教育」も入っている。各学校の教室に掲示されるので、またみていただきたい。ふるさと高松の良さを認識し、自分たちが受け継いでいこうというふるさと教育に努めていきたい。



<小学校版>



<中学校版>

【中副会長 コメント】

創造都市とは、市民1人1人が創造的に働き暮らし活動都市のこと。全国が目指しているこの創造都市を、高松どう進めるか

【ライフスタイルの創造】「〇〇の時間外」という考えはこれから重要だ

【空き家・空き店舗対策】素晴らしい意見だと思うが、お客にどう受け入れられるか、いかに支持され、実際に買ってくれる店をどう作っていくかという視点も盛り込んで進めてほしい。

【こども・教育】見方を変えることは大事。

【コミュニティ】行政におんぶにだっこじゃだめ。丸亀町の古川理事長が言っていたが、まちのみんなが責任をとらないとまちは発展しない。

市民がいかに賢くなるか、市役所の尻をどうたたくか。今日参加されてるみなさんを含め、みんなのところが次の高松をつくる。

【松下副市長コメント】

これだけ活躍盛りの方々、今日の発表に至るまで高松のために時間をさいていただいたことに敬意を表す。

【ライフスタイルの創造】非言語という切り口が重要だと感じた。台湾の友人が日本を旅行する際の食事の話（メニューに写真や値段がわかる店をリピート利用している。） 外客誘致する中で言語がバリアにならないように。（公共交通の話。）

【空き家・空き店舗】個性・特色のある店、特徴のある改装が鍵（例：空き倉庫を改装したボルダリングの店）

【こども・教育】切り口はぶっ飛んでいるが本質はついている。

【コミュニティ】公園づくりでのワークショップへの参加の経験談。意識の高い市民だけでなく、声を上げない人の意見も行政として吸い上げていくのが必要。若手職員ほど、せまいセクションを担当するので、早くから高松全体のことを考えたり、自分の職務を離れて考える機会があるととても良い経験になる。

今日の会でたくさんのヒントをいただいた。ぜひ今後活かしたい。



公開U40

平成27年11月11日（水）18:30～21:00

瓦町 FLAG 8階 IKODE 瓦町 多目的スタジオ